

(議長)

次に、出崎議員の発言を許可致します。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

えーと、私からは、2問、質問致します。

えー、1問目、江差港の長期構想見直しについて伺います。

能登で大きな地震が発生しました。現地に行って、派遣されて色々お手伝いした職員の皆さん、お疲れ様でした。

えー、能登半島における地震は、日本千島海溝地震災害に備えている渡島半島の太平洋側沿岸市町村の震災対策においても教訓を伝えております。

お配りしている資料1の図の赤い部分がですね、今現在、国の方でもですね、対策、資本投下して対策を立てている地域になります。

えー日本海側にある江差町は、もちろんこの津波避難対策特別強化地域には含まれていませんが、渡島半島全体を考えた時、振興局の所在地である、そして檜山の盟主として、渡島半島太平洋側の被災時に復興支援を担わざるを得ないと考えています。そのために半島の道路網と江差港の整備が必要だと思っております。

また、現在進められている檜山沖洋上風力事業のゾーニングにおいては、海域の多くが調整エリアとなることが想定されています。

そこで、防災支援機能の拡充及び将来の調整エリアの対応のため、総合計画の継続施策と位置付けられている江差港長期構想の見直しに着手する考えはないか伺います。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員からの1問目、江差港の長期構想見直しについてのご質問にお答えを致します。

まず、能登半島地震の教訓を踏まえた渡島半島太平洋側が被災した場合の復興等の支援を担う江差港と半島道路網の整備の必要性についてでございます。

令和5年第1回定例会における出崎議員からの一般質問でもご答弁申し上げておりますが、国におきましては、港を活用した災害対応支援として、港の機能を最大限活用した災害対応のための物流、人流ネットワークを命のみなとネットワークと名付

け、船舶を活用した防災訓練の実施などの取組を通じて、ネットワークの形成を進めていくこととしております。町と致しましては、まずは、こうした国の動きと連携を図って参りたいと考えております。

また、半島道路網整備についてですが、道南地域における商工業品や農水産物の輸送機能の向上はもとより、災害時における代替避難ルートの確保、高次医療施設への搬送時間の短縮などを図る観点から、現在、函館空港から木古内町まで開通している函館江差自動車道の早期延伸を実現する必要があります。

早期事業化に向けた取り組みとして、平成27年6月、江差町長である私が会長として先頭に立ちながら、檜山管内の官民と木古内町、木古内町議会など45団体で構成する、函館江差自動車道木古内江差間整備促進協議会を設立し、当該区間が早期に事業化されるよう、要請運動に力を入れていますので、江差町議会におかれましてもご協力賜りますよう宜しくお願い致します。

次に、洋上風力発電のゾーニングマップにおいて調整エリアとなる海域への対応についてでございます。

江差町再生可能エネルギーゾーニング検討協議会において、協議の結果を踏まえて、ゾーニングマップ及び環境配慮事項等についての整理を行い、報告書として取りまとめたところですが、洋上については、かもめ島周辺を含めた景観の保全を図るとし、港湾区域の範囲を保全エリアとする方向性が示されており、エリアの設定が今後の港湾整備に影響を及ぼすことはないものと考えております。

一方で、洋上風力が事業化された場合、江差港は洋上風力発電における基地港湾を補完する港湾、あるいは、運用維持管理の拠点として活用されることも想定しております。今後、道内の基地港湾の指定や洋上風力の事業化に動きがあった段階で、協議が進むものと考えておりますので、ご理解願います。

最後に、江差港長期構想の見直しについてでございますが、江差港長期構想は平成3年に策定し、平成22年を目標年次とした江差港の長期整備構想で、平成13年度に構想計画の見直しを行っております。既に目標年次が経過していること、計画内容が変更となっていることなど、見直し等を図る必要があると考えておりますが、北の江の島構想や洋上風力発電事業におけるメンテナンスの補完港として活用の見通し等を踏まえて、検討して参りたいと考えておりますのでご理解願いたいと思います。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

ま、今の点について、ちょっと、再質問させていただきます。あの一、ま、去年の3月

のえー、議会でも、この江差港の見直しについては、言及しました。

で、えー、えーと国ですね、あの、命のみなとネットワークですか、このちょっと私調べてみたんですが、ま、色々事例は載ってます。だけど、これ江差町から何かその面でアプローチはしているんでしょうか。あの、はっきり言えばですね、太平洋側、特にこの渡島半島の基幹都市である函館がですね、被災した時、その復旧復興に江差港からの支援が必要になるということなんです。で、能登半島のケースで見られるように、渡島半島全体の復興支援体制を強靱にするためには、日本海側の江差港に復興支援機能を備えておくことが必要だと私は思ってます。その機能の整備は、ほとんど、北海道や、えー国の仕事になるでしょうが、地元江差としてですね、港の整備構想にしっかりと位置付けて、上級官庁との協議に望む必要があるというふうに考えています。

ちょっと、あの、お配りした資料の2の、えー、見て頂ければと思いますが、F18断層というのが、これが、あの、奥尻島と江差町の間、特にかなりですね、近い檜山海岸の方にあります。これを起因とする地震、津波はですね、最大マグニチュード7.7、それからF17断層、こちらの起因とする地震では、マグニチュード7.8、震度7クラスが想定されています。で、あの、能登地震はマグニチュード同じように7.6です。それから、阪神淡路で7.3、0.3違っただけで、マグニチュードのエネルギーは2倍になります。それクラスの、能登クラスですね、大きな地震が想定されています。ま、その時にはですね、江差も太平洋側から助けてもらわなければなりません。道路網と江差港の整備が必須だと、私は考えています。日本海側が太平洋側と同じように対策強化地域と位置付けられるにはですね、もう少し時間が掛かるように聞いています。今、南の方からやってきているというふうに聞いて、能登半島まで、まだ、届いていなかったんですね、見直しが。だから、太平洋側はこういうふうに赤く、もう強化地域で指定されるんだけど、日本海側がこれから江差港の方まで、北海道までくるには、まだ、かなり時間が掛かるようです。ま、そして、江差港の整備についてもですね、えー時間を要することでしょうから、出来るだけ早くですね、整備構想の見直しに着手して、それに備えておく必要があると思うんですが、その点、如何でしょうか。

(議長)

副町長。

「副町長」

あの一出崎議員の再質問、えーと、命のみなとネットワークへの、今の絡みでのアプローチは特にしていません。ただし、いま、我々も、ま、気付いた点として、ま、すべて洋上風力を、あの原因者にする訳ではございませんけども、えー、まず、この洋上風力の基地局の補完港になることでのこの港湾の、ま、整備促進が少なからず、まず近道とすれば、諮りたいなと。

それから2つ目は、今の能登半島の、いわば、半島道路のこの地震災害の時の1本道路の怖さ、これがまさしく渡島半島においても、この江差含めてですね、仮に海岸沿いに国道1本しかと通っていない訳でございますから、接道となると柳崎であったり、上ノ国の道道との接道しかございません。そういう意味で、えー、町長も、あの一、高規格道路に、今度、話変わりますけども、ま、協議会の会長もしてございますけども、江差自動車道の渡島と檜山を結ぶこの道路の意味合いというのは、今まで以上に洋上風力の絡み、それから、この能登半島の地震による半島道路1本の怖さ、これらをですね、改めて付加した状況で、いわば、国に含めてですね、強い要請をまた、して参りたいと、このように思っております。

今現時点での答弁は、その程度になりますけど、宜しくお願いします。はい。

(議長)

宜しいですか。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

はい。あの一、回答ありがとうございました。

えーと、ま、道路網の方は何となく、こう、イメージ出来るんですが、港の方についてですね、なかなか着手、その洋上風力以外の部分でなかなか手が付いていないのかという気がしたものですから、お聞きしました。

で、えーと、次、2番目に入らしてもらいます。

えー、2問目。江差北小中学校の垂直避難について、お伺いします。

江差北小中学校は、津波発生時の避難所に指定されています。現在、消防との話で垂直避難を前提に訓練が行われています。想定している厚沢部川河口部での最大遡上高は、これは、あの一、F18、先程のF18の地震が起きた場合の想定なんですけども、高さ15.64m、それから第1波到達時間が8分であります。ですから、あの一、2階への垂直避難、これは、ま、逃げる時間、そんなにないですから、やむを得ないと、ま、思っています。

ただあの、存校舎内の中でですね、大規模な改築じゃなくて、既存校舎の中で階上増設について調査、検討出来ないものか伺います。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員からの津波発生時の垂直避難に関するご質問にお答え致します。

北海道日本海沿岸における津波浸水想定に関しましては、平成29年に北海道から公表され、議員ご指摘のとおり厚沢部川河口部における最大遡上高15.46mなど、町内4か所の想定値が示されています。

町ではこれらの公表値を基に令和4年3月に江差町防災ハザードマップを作成しており、ご質問の江差北小中学校につきましては、厚沢部川河口部などとは違い津波の浸水想定区域には含まれていないことから、避難所に指定しているところです。

現在、北海道防災会議のワーキンググループにおいて、日本海沿岸に関する議論が重ねられておりますが、道路や建物などの被害想定を検討しているもので、浸水想定区域の変更ではないことから、津波に関する避難所としての江差北小中学校への影響が想定されないため、ご質問にある既存校舎内の階上増設については、現時点では考えておりませんので、ご理解願いたいと思います。

「出崎議員」

はい。

（議長）

出崎議員。

「出崎議員」

再質問、行います。

ま、あの、北海道のシュミレーション結果だと、あの津波の基準水位は、あの辺は国道の手前まで、標高4.7mの北小中学校では、えー、津波が到達しないということになっているのはわかります。今の回答でですね、えー、道の見直しによっても、そのシュミレーション自体は、ま、やらないということなのように聞こえました。

ただ、自分はですね、あそこで津波警報出たら、決して学校へは避難しません。山の方へ車で逃げます。ま、私は、江差に戻る前の2年、復興庁からの派遣で気仙沼市で復興事業に従事してきましたが、市内の海に近い4階建ての高校で、これ4階建ての高校なんですけど、あの、4階のフロアの25センチまで、上まで、水位が上がったのを見てます。それから、ちょっと、その南側の山元町という所があるんですが、それは、小学校の2階の天井まで津波が水が上がっています。あの、ま、気仙沼市のは、海から100メートルくらいしか離れていません。それから、山元町の方で500メートルくらいですかね、で、あそこの今の水堀のある北小中学校は、海岸からだと1キロくらい離れています。中に松林もあったりしてですね、真っすぐは来ないかも知れません。だけど、あの、厚沢部川の支流の鹹川が学校の近く200メートルまで来

てます。で、これ、津波の想定についてはですね、これ北海道のシュミレーション、どんなデータ入ってるか、ちょっと自分、確認出来てないんですが、よく、あの、川を伝って行くことが言われています。あの一、シュミレーションとおりに、なかなかいかないことも多くあります。ま、自分がですね、山に逃げて、子供達を学校に留めておいて、ま、そういうことについて、どうも忍びない思いがします。気休めかも知れませんが、2階のですね、更に上に避難出来る場所があれば、少しは安心出来るのかなというふうに思ってます。えーと、あそこは、学校は屋上もないし、ま、えー、お金も掛かることも考えると、そういう今の施設の中でですね、中三階で、何でも、どっかもう一段高いところがあればですね、えー、子供達も安心するんじゃないかと、それをですね、やっぱり専門家の建築士に見てもらって、その可能性を探って欲しいということが、あの、質問の前提です。実際の工事着手となるとですね、なかなか予算措置が、このいわゆる地域の指定されないとなすね、なかなかお金回ってこないと思うんですが、ま、調査、その可能性があるかないかの調査くらい着手出来ないものでしょうか、伺います。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」

えー、ただ今のご質問にお答え致します。

えー、地震想定としますと、先程、町長答弁させて頂きましたように、浸水想定区域には入っていないと。今、現在、北海道のワーキンググループにおいてもその浸水想定区域の変更ではなく、被害想定ということでのご答弁をさせて頂きました。

ま、議員から万が一に備えて、そういった対策を講ずるべきではないかと、せめて調査、検討すべきではないかということの、2問目のご質問だったかと思います。私どもとしますと、例えば、学校施設を改築、まあ手を加えるとした場合にどういった財源措置があるのか、というところの検討はさせて頂いている状況にはあります。ただ、現状において、えー江差北小中学校に限らず、浸水想定がされ得る区域のおける対策というのも、町全体として考える立場にある中においては、まずは、そういった想定区域となる部分が、まずは優先させる区域かなというふうに考えておりますし、また、今後のワーキンググループ等の議論の経過を踏まえて、浸水想定区域が変わるような事態が生じるようであれば、その辺につきましては、検討項目というふうにさせて頂きたいと考えております。

以上です。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

再々質問で、あの一、そうすると、なかなか、道からのそのシュミレーション結果の見直しが起きないとなかなか着手出来ないという回答になってしまうんだけど、そういうお考えでしょうか。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」

はい。現時点でにおいては、ご理解頂いた内容で宜しいかと思えます。
以上です。

(議長)

以上で、出崎議員の一般質問を終わります。